# TAD Letter

DOKI-DOKI 03

富山県美術館
Toyama Prefectural Museum of Art and Design

EXHIBITION 1

## 高野山金剛峯寺 襖絵完成記念

# 千住博展

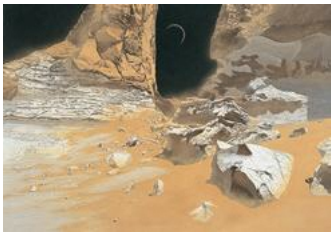
「高野山金剛峯寺 襖絵完成記念　千住博展」ポスター
（デザイン：TSDO Inc.）

千住博（1958年、東京生まれ）は、自然と密接に関わっている日本画の理念をふまえながら、国際的な視野をもち、今日にあるべき「美」を追求している画家です。1995年ヴェネツィア・ビエンナーレの《ザ・フォール》で、鮮烈な国際デビューを果たした千住は、還暦を迎え画業40余年となりました。本展では、画家のこれまでの足跡、そして今をご紹介します。

本展の一番の見所は、2015年の高野山金剛峯寺開創1200年を記念し、大主殿の「茶の間」と「囲炉裏の間」に奉納することが決定した襖絵と床の間からなる障壁画、画家が現在の最高作と誇る《断崖図》と《瀧図》の初公開です。《断崖図》では若き日の空海が目にしたであろう四国の山々が描かれています。《瀧図》では千住の代名詞の「瀧」が、焼群青と胡粉を巧みに使って描かれ、生命の神秘を感じさせる清麗な空間が創出されています。襖に仕立てられる前の、「絵画」として作品と対峙できる貴重な機会です。

この襖絵のほか、画家の自然観がうかがえる代表作をご紹介します。千住博の世界観をどうぞお楽しみください。

## 作品紹介



左：《朝に向かって》1989年
軽井沢千住博美術館所蔵

右：《月響》2006年
軽井沢千住博美術館所蔵

表紙：千住博《上空の風
（アンリの空）》2006年
軽井沢千住博美術館所蔵

《高野山金剛峯寺襖絵 瀧図》（部分）2018年　高野山金剛峯寺所蔵

《高野山金剛峯寺襖絵 断崖図》（部分）2018年
高野山金剛峯寺所蔵

《三春の滝桜》2013年
軽井沢千住博美術館所蔵

## 開催概要

●会期：平成30（2018）年6月9日（土）～7月29日（日）休館日＝毎週水曜日、7月17日（火）　●会場：富山県美術館2階展示室2、3、4
●主催：千住博展実行委員会（富山県美術館、北日本新聞社）、NHKプラネット中部
●観覧料：一般 1,300（1,000）円／大学生950（750）円、／一般前売り1,000円　高校生以下無料
※（ ）内は20名以上の団体料金、一般前売り販売は会期初日前日（6月8日）まで

## 関連イベント

※詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

### ❶ 千住博氏 × 伊東順二氏 対談 「絵画の可能性」

第46回ヴェネツィア・ビエンナーレ（1995年）の日本政府館のコミッショナーとして千住博氏の《ザ・フォール》を世界的に紹介した伊東順二氏（美術評論家）と千住氏との対談。日本画の可能性や千住作品の魅力についてお話いただきます。

●日時：6月9日（土）　15：00～（約90分）　●会場：3階ホール（定員：120名（要「千住博展」観覧券、要事前整理券）

### ❷ 学芸員によるギャラリートーク

学芸員と一緒に展示室をまわります。

●日時：6月15日（金）、16日（土）、22日（金）、7月1日（日）、14日（土）、23日（月）　各回11：00～
●会場：2階展示室2、3、4（要当日有効の「千住博展」観覧券）＊事前申し込み不要

EXHIBITION 2

# 第12回世界ポスタートリエンナーレトヤマ2018（IPT2018）

IPT2018 公募ポスター（デザイン=TSDO Inc.）

「IPT」の名で知られるこの展覧会は、1985年から富山県立近代美術館で3年に一度開催してきた日本で唯一の国際公募展のポスター展であり、2018年で第12回を迎えます。国内外からの応募作品を第一線のデザイナーらが審査し、受賞・入選となったポスターを展示する本展は、世界のポスターデザインの最先端に出会う絶好の機会です。富山県美術館となって初めての開催となるIPT2018では、若手世代に向けた部門を新設するとともに、ご来場の方々も参加できる企画を準備中です。この夏のIPT2018にご期待ください。

## 開催概要

●会期：8月11日（祝・土）～10月8日（祝・月）休館日=毎週水曜日、9月18日（火）臨時開館=8月15日（水）、10月3日（水）　●会場：富山県美術館2階 展示室2、3、4　●観覧料：一般1,100円（850円）／大学生550円（420円）／一般前売り850円　高校生以下無料　※（ ）内は20名以上の団体料金、一般前売り販売は会期初日前日（8月10日）まで

## 関連イベント

※詳細はウェブサイトをご覧ください。

### IPT2018最新情報！「Beyond-IPT2018 応援ポスター展」開催中

「第12回世界ポスタートリエンナーレトヤマ2018」（IPT2018）のプレ企画として、1F TADギャラリーでは「Beyond-IPT2018 応援ポスター展」を6月19日まで開催中です。実行委員と国内外審査員が、IPT2018自主制作部門（B-①部門、U30部門）のテーマ「Beyond」のもとで新たに制作した大型ポスターを紹介しています。今ここにある場所を超えるイメージを呼び覚ますテーマ「Beyond」のポスターで、一足早くIPT2018の雰囲気を楽しんでいただければと思います。

●会期：4月21日（土）～6月19日（火）　休館日=毎週水曜日
●会場：富山県美術館1階 TADギャラリー
●観覧料：無料

## TOPICS 3

# 「デザインあ展 in TOYAMA」開催報告

テレビ番組の世界を、参加・体験の場に発展させた展覧会「デザインあ展 in TOYAMA」。大型連休や県民ふるさとの日（無料開放日）もあり、本当に多くの皆様にご来場いただきました。会期中には、出品クリエイターの方々を講師にお迎えし、「とやまのあ」入賞作品発表・表彰式×クリエイターズトーク、「もん」のワークショップ、なまえの字を使ったワークショップ「デザインな」、「解散！」のじかんと題したワークショップなど、魅力ある関連イベントを開催しました。「面白かった」「楽しかった」と大変多くの声が寄せられる中、好評のうちに展覧会は閉幕となりました。今度は自身で、日常の中から、視点をかえて、楽しみながら新鮮な「あ！」を見つけていっていただきたいと思います。

＊デザインあ展 in TOYAMA：3月21日（祝・水）～5月20日（日）に開催されました。

会場風景（テーマ「お弁当」の所でお話されているデザイナーの佐藤卓氏）

会場風景（体感のへや）

## INFORMATION 4

### 富山県美術館の展覧会スケジュール

**三沢厚彦　ANIMALS**

●会期：2018年10月20日（土）～12月25日（火）　●会場：富山県美術館 2階展示室2、3、4

### 近隣美術館の展覧会スケジュール

【富山県水墨美術館】『名都美術館名品展 恋する日本画』　●会期：2018年7月8日（日）まで
『生誕120年 児玉希望展』　●会期：2018年7月13日（金）～8月26日（日）まで

【富山市ガラス美術館】『ダブルリフレクション 世界を見つめなおす瞬間（とき）』　●会期：2018年6月17日（日）まで
『扇田克也 光のカタチ』　●会期：2018年9月3日（月）まで

【森記念秋水美術館】『北国物のきらめき―北陸の名刀展―』　●会期：2018年8月26日（日）まで
『光の波紋　GLASS ＋ PHOTO 野田雄一・大志摩洋一　共創』　●会期：2018年8月26日（日）まで

【樂翠亭美術館】『Four Rooms+1　4つの和室と蔵にみる現代美術』　●会期：2018年6月19日（火）まで

【金沢21世紀美術館】『コレクション展　見ることの冒険』　●会期：2018年6月24日（日）まで
『ルナ・イスラム《縮尺（1/16インチ＝1フィート）》』　●会期：2018年6月24日（日）まで
『ローカル・テキスタイル1　TO&FRO　うすく、かるく』　●会期：2018年6月24日（日）まで
『アイ・チョー・クリスティン　霊性と寓意』　●会期：2018年8月19日（日）まで
『アペルト08　七搦綾乃』　●会期：2018年9月24日（祝・月）まで

## ATELIER 5

### ○オープンラボ（土日祝）
### 千住博展に関連したワークショップ

●会期：5月27日（日）～7月29日（日）の土日祝に開催予定
●会場：富山県美術館 3階ラボ（アトリエ内）●参加費：無料（各回定員：10家族程度）
●受付時間：10：00、11：00、14：00、15：00 ●活動時間：10：00 ～ 12：00 ／ 14：00 ～ 16：00

### ○オープンラボ（平日）
### 「まるで○○！ひらめきコレクション」

TAD コレクションを元に描かれた形を、他のものに見立てて絵を描きます。

●会期：3月22日（木）～7月17日（火）平日に開催 ●会場：富山県美術館 3階ラボ（アトリエ内）
●参加費：無料 ●活動時間：10：00 ～ 16：00

## COLUMN 6

### 話して楽しい！エデュケーションプログラム

様々な利用者層に向けて、当館が美術館に親しんでもらえるよう実施しているエデュケーションプログラムをご紹介します。

**①見て話し、想像する対話型鑑賞**

平日、学校団体向けに美術館紹介や、展示室で本物の作品を観て話し合う鑑賞体験を実施しています。作品をよく観て気づいたこと、発見したことなどを発表しあいます。

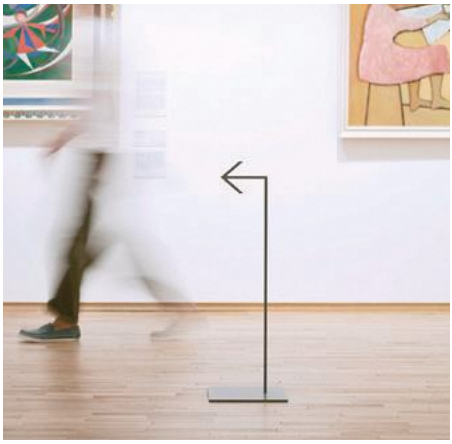
**②つくりながらイメージをかたちにするワークショップ**

土・日・祝日、3階アトリエで体験できる造形ワークショップ「オープンラボ」は、どなたでも参加でき、展覧会やコレクション作品をテーマとしています。体験者には、活動の終わりに自作をプレゼンテーションしてもらいます。

どちらのプログラムも意識的に言葉によるコミュニケーションを行います。他者の意見を聞くことでアートに触れる体験がより印象深いものとなることを目指しています。

COLUMN 7

## 館内のコンシェルジュ ～富山県美術館のサイン計画～



広い館内、どの方向に行けばよいのかわからなくなってしまった……。そんな時に目にする、矢印や案内図などのサイン。当館のサイン計画は、シンボルマークをデザインした永井一正さん監修のもと、グラフィックデザイナー／アートディレクターの色部義昭さんが手がけました。富山県美術館の案内人とでも言うべきサインをデザインするにあたり、色部さんは「控えめな出で立ちながら、時折とても気の利いた良い動きをするホテルのコンシェルジュのような人物像」をイメージしたとのことです。今回は、そんな当館のサインの特徴やこだわりの一部をご紹介します。

### ①建物に溶け込むデザイン

サインには、建築に使われているダークグレーの配色やアルミ素材が取り入れられています。また、壁の素材を生かすよう、壁に直接シルクスクリーンで文字を印刷したり、矢印や地図の輪郭線だけを立体的にしたりと、建物と調和しながらも必要なときには目に留まる仕上げとなっているのです。

### ②シンボルマークがこんなところにも!

館内の貼り紙やポスターの掲示に、直角三角形や半月型のマグネットが使われていることには気がついたでしょうか。ガラス面の衝突防止用のサインも、小さな直角三角形。これらもシンボルマークの形をもとに考えられた、サイン計画の一環なのです。

### ③サインの裏側の秘密

美術館の入口や外壁に設置されているシンボルマーク。このうち、建物の外壁と、1階受付の壁面にあるサインには、隠されたこだわりがあります。壁から少し浮かせて設置されたサインの裏側が、シンボルマークに用いられている青色に塗られているのです。表からはわかりませんが、バックライトで照らされると、その影がほんのり青くうつるとか!?

そのほかにも、紙面ではご紹介しきれない様々な工夫やこだわりが詰まっています。現在、サインをキーワードに現代美術とデザインを紹介する展覧会「わたしはどこにいる?サインと場所をめぐるアートとデザイン」を、来年2019年3月の開催に向けて準備中。館内のサインにも、ぜひ目を向けてみてくださいね。

## コレクション紹介

三沢厚彦／Atsuhiko Misawa／1961～
《Animal 2017-01-B》2017年／ブロンズ、ウレタン塗料

《Animal 2017-01-B》2017年／※屋外広場中央の作品です

富山県美術館（TAD）の2階の屋外広場には、クマをモチーフにしたブロンズ作品が設置されています。西に呉羽山と神通川、館内の中央廊下を挟んで東に立山を仰ぐ広々とした空間のなか、中央に高さ約3mの大きなクマ、右側に約2mのクマ、左側にコグマが配置され、TADのクマたちはいかにも居心地がよさそうです。

本作は彫刻家の三沢厚彦さんに建設中の富山県美術館の段階から来館いただき、依頼制作により設置された作品です。巨大な建物でありながら威圧感を感じさせず、自然に出入りできるよう設計されたTADの姿に共感し「自然に存在するような魅力ある彫刻空間」という構想のもと制作されました。また三沢さんは富山県の立山開山伝説*に触発され、ハクタカをモチーフにした作品にも取り組み、クマの彫刻と呼応するかのように、屋外広場を見下ろす屋上に設置されています。

ブロンズ作品の原型となった巨大な木彫作品も、2階の展示室横の側廊に展示されています。材料となっているクスノキの香り、ノミや彫刻刀で削られた木肌、油絵具で着彩された独特の柔らかな色合いなど、木彫作品ならではの魅力に溢れ、圧倒的な存在感を体感することができます。屋外のブロンズ作品と見比べてみるのも楽しみのひとつでしょう。

作家の三沢厚彦さんは等身大の動物をモチーフにした彫刻で知られ、現代の日本彫刻を代表する作家のひとりです。三沢さんの彫刻は親しみやすい造形でありながら、動物をそっくりにはつくっていません。真っ白な体に左右が異なる瞳の色。青は海や川、空を、緑は森や山を映し出し、この富山の自然を表現しています。丸みのある造形からは温かさを、澄んだ瞳、鋭い爪からは厳しさを感じさせます。自然のなかの生命の豊かさを想起させる作品です。

（普及課長　麻生恵子）

＊富山県には、佐伯有頼（さえき ありより）公が鷹狩で逃げたハクタカを追いかけたところ、クマに出会い、阿弥陀如来の姿となって立山開山を勧めた立山開山伝説があります。

※TADでは、10月20日から12月25日まで、企画展「三沢厚彦　ANIMALS」を開催します。

**富山県美術館（TAD）**
〒930-0806　富山県富山市木場町3-20（富岩運河環水公園内）
TEL：076-431-2711　FAX：076-431-2712　http://tad-toyama.jp/
発行日：2018年6月4日